

パリビズマブ(シナジス[®])はどのようにダウン症のある乳児を RSV (RS ウィルス) から守るのか？

パリビズマブ(Palivizumab)は、RS ウィルス(RSV)から身を守るために、一部の赤ちゃんに投与されるワクチンです。この資料では、このワクチンと、それがどのように赤ちゃんを守るのかについて説明します。

パリビズマブとは何ですか？

パリビズマブ（シナジス[®]とも呼ばれます）は RSV により合併症（他の医学的問題）を引き起こす可能性が高い乳幼児を守るための注射です。

パリビズマブの注射を受ける頻度は？

注射は 30 日に 1 回、RSV 流行期（11 月から 4 月）に行われます。ほとんどの場合、5 回注射すれば、赤ちゃんを RSV から守るのに十分です。

パリビズマブ注射は特定の赤ちゃんにしか使えないのですか？

パリビズマブ注射は、通常、6 歳までの乳幼児で、RSV の合併症を起こす可能性が高い赤ちゃんや子どもに投与されます。主治医が、パリビズマブがあなたの赤ちゃんに適応かどうかを説明します。（日本では 2 歳までが保険適応です。）

知っていましたか？

RSV ワクチンの接種を受けるためにはダウン症の詳しい診断を受ける必要があります。ワクチンの接種が必要かは主治医にご相談ください。

RSV とは？

RSV はウィルスの一種で、肺や呼吸器系（呼吸するときに空気が通る通路で、口、鼻、喉、肺を含む）への最も一般的な感染症の原因となります。RSV は感染した人が咳やくしゃみをしたときの空気や飛沫を通じて広がります。

RSV の危険因子は何ですか？

赤ちゃんが RSV に感染するリスク因子がいくつかあります。リスク因子は以下の通りです。

- ダウン症の診断
- 生後 24 ヶ月未満の乳児
- 生後 29 週またはそれ以前に生まれた早産児
- 生後 32 週またはそれ以前の早産児で、慢性肺疾患のある児
- 先天性心疾患を有する乳児
- 肺の異常（肺の形や働きに違いがある）または特定の神経筋疾患（神経や筋肉に影響を及ぼす疾患）のある乳幼児

RSV の症状はどのようなものですか？

RSV の症状の多くは、感染してから 4 ~ 6 日後に現れます。症状は RSV 感染がどの程度重症化するかによって異なります。

一般的な症状は以下の通りです。

- 短く、浅く、速い呼吸
- 咳
- 哺乳不良
- 異常な疲労感（嗜眠状態）
- イライラ
- 赤ちゃんや幼児の場合、呼吸のたびに胸の筋肉や皮膚が内側に引っ張られる（陥没呼吸）のがわかるかもしれません。これは、息苦しさを示すサインです。

重篤な症状には、以下のようなものがあります。

- 発熱
- 激しい咳
- 喘鳴（息を吐き出すときに聞こえる甲高い音）
- 急速な呼吸または呼吸困難
- チアノーゼ（酸素不足により皮膚が青白く見える）



佑 -YOU-

マサチューセッツ総合小児病院の許可のもと、「佑」（代表：植田紀美子 関西大学 / はしもとクリニック）が翻訳し
和泉出版印刷株式会社が作成しました。日本語訳についてのお問合先 info@you-3c.com